

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	3
基本施策	1	農業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	3	生産技術の向上		

1 施策の概要

基本方針	関係機関と連携し、酪農経営について、適切な飼料給与、飼養管理技術の改善、生産技術の向上、集約放牧、搾乳・ほ乳ロボット、有機酪農等多様な生産技術を研究する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	生産技術の向上を図る上で一部農家において搾乳ロボットの導入を図っており、関係機関と連携をしながら、専門的知識の習得を行っている。	牧草やデントコーンの生育状況調査や突発的な気象災害等に対する被害調査を関係機関と連携しながら実施し、また、搾乳やほ乳の自動化等酪農技術対策の樹立や営農指導の徹底を図っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	生産技術の向上を図る上で、より一層の飼養管理技術の改善と情報の共有を図ることが求められている。	地域の課題に対する研究や開発された新技術の生産現場への普及を速やかに図る体制を整備する必要がある。また、優良雌牛判別生産技術等具体策により、効率的な生乳生産に努める必要もある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額						
	定義等	全農家の農業生産額						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	37億円	36億円	38億円	37億円	38億円		43億円
指標2	指標名	生乳生産量						
	定義等	全農家の生乳生産量						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	36,354 t	37,488 t	37,568 t	37,103t	36,628t		42848 t
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	畜産指導者育成事業	農務係		A	継続/現状維持	A
②	農業生産拡大緊急対策事業	農務係	4,954	C	継続/拡充	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	専門知識の習得や情報の共有は、農業施策を実施する上で重要なものである。
② 有効性	A	本施策の実施により、現状の課題に対する対応策の検討がなされており、生産技術の向上が図られている。
③ 効率性	A	本施策は効率的に実施されており、事業費等の削減の余地はない。
④ 公平性	A	本施策により検討された課題等における対応策は農家にすべて還元されるものであり、公平なものであると判断できる。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関との協議により、生産向上等に係る施策に反映されている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各関係機関において、現状の課題に対する対応策の共有がなされており、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/現状維持	継続/現状維持	
生産技術の向上は、地域農業経営の安定化を図る上でも必要不可欠であり、今後においても継続していく必要がある。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		